

# 『大』キャッチ プレス

Matsubara Daisuke Seto City Report

## 松原大介

瀬戸市議会議員



2020年7月発行

Vol.04

### 新型コロナウイルス感染症への瀬戸市の独自施策と

### わたくしの評価 (令和2年6月30日時点)

個人向け支援

事業者向け支援

#### ひとり親家庭等応援金

ひとり親家庭等の生活を支援するため、1世帯あたり5万円を応援金として支給。手続き不要でスピード感あり、優先順位としても高い。良策と考えます。

#### 学習支援用図書カード配布(2000円分)

子どもたちは喜びます。しかし、市が行う施策の優先順位としてはどうでしょうか。事業費2100万円。これに使うべきだったか・・・。

#### 学習支援ソフト導入(中学3年)

学習支援の優先順位としては正しいと考えます。中学3年生が、実際にこれがあってよかったと思えるような内容であれば良策と考えます。

#### 給食費相当分支給(就学援助対象の児童・生徒)

校期間中における家庭の食費負担増を軽減するため、給食費相当分について支給。給食委託業者への支援策も講じられればなおよいのですが。

#### 児童クラブ運営・活動補助金

長時間開設による費用の増加分負担と、利用自粛に伴う減収分を補てん。児童クラブの重要性はコロナ禍で、より鮮明になりました。必要不可欠な施策。

#### 休業協力金(休業開始時期により市独自)

休業の開始時期により協力金の対象とならない事業者に対して本市単独の休業協力金を交付(25万円)。国の施策の隙間を埋める良策。本市は敏速に施策発表しました。

#### 飲食店事業者支援給付金

営業時間の短縮の協力要請の対象とならなかった事業者に対して10万円の給付金を支給。飲食店は時間短縮により売上に影響があったでしょうが、この施策が本市商工業の特色に沿っているのか疑問は残ります。

#### 飲食店活動再開応援(消毒用アルコールの配布)

店舗内で飲食品の提供をする市内店舗に対して、酒販ルートでアルコール(消毒用)を配布。最優先して行うべき施策だったのか疑問が残ります。また、実行するためにはそれなりの職員負担が発生します。

#### まとめ

各市が独自施策をうち出すなか、本市も負けじとあれもこれもやっておりますが、市の財力(見通しも含めて)に見合ったものでなければ、都市経営そのものが揺るぎかねませんので注意が必要です。また、施策によっては職員負担が増大してしまうことも忘れてはいけません。

## 市内小中学校

# ipad1人1台導入決定(年度内)

瀬戸市は、今年度中に学校ICT環境の整備を推進するため、1人1台のタブレット端末及び環境を整備するものとなりました。市内の小中学校と特別支援学校が対象です。にじの丘学園では一部先行導入済。

課題は、モバイルルーターの貸与もあるものの、一斉休校時や持ち帰り学習時において、一律にネット環境が保障されていないことです。せっかくの1人1台です。有意義なものにしなければいけません。

## 本山中跡地に瀬戸SOLAN小学校が決定

瀬戸SOLAN小学校の設置認可について、瀬戸市国際未来教育特区学校審議会において審査し、認可に問題ないとの答申が示されたことから、瀬戸市長は6月19日に認可を決定しました。

市は市民向けの説明会を開催するとしていますが、十分な市民理解が得られていない状態での認可には疑問が残ります。せめて、地域住民への説明会を開いて意見を聞き、市民理解を求めてから認可の可否を決定すべきだったのではないのでしょうか。

## 市議会議員になって1年が過ぎました

2019年5月、令和の始まりとともに、議員生活が始まり、早一年が過ぎました。日々研鑽に努めております。

通学のこと、跡地のことなど、身近な課題が多い中で、まさかのコロナ禍ですが、懸命に議員活動を行っているつもりです。まだまだ至らぬ点はいかと思いますが、2年目も精進してまいりますのでよろしくお願いいたします！

## 最終日追加議決された支援メニュー

- 事業継続支援給付金（減少率30～50%対象）
  - 出生臨時特別給付金（4/28以降出生者対象）
  - 飲食等消費促進補助金
  - 瀬戸焼・ツクリテ販路開拓支援
  - アーティスト活動支援補助金
  - 保育所関係補助金
  - スクール・ソーシャル・学習指導員の追加配置
  - 小中学校トイレ等の清掃委託
  - 熱中症対策 児童生徒飲料水購入
  - 熱中症対策 体育館への大型冷風機の設置
  - 避難所パーション等防災機材購入
- ※抜粋であり、すべてではありません。

## 松原大介の一般質問

○瀬戸市新型コロナウイルス感染症対策基金を市民にわかりやすく運用するために

【質問趣旨】

本市では、瀬戸市新型コロナウイルス感染症対策基金を設置しましたが、市民からの寄附の受け皿としていることから、施策の財源としては不安定な要素が多く、即効性が必要な施策については、財政調整基金から直接支出しているというのが現状です。

■市民からの寄附については、その額、時期ともに不確定であり、寄附する市民にとっても、どのような使い方がされるか不明確であります。事業への評価は市民それぞれであり、事業によっては寄附をした市民の意図とそぐわない可能性もあります。それらの課題解消のため、クラウドファンディングの手法のように、寄附を受け付ける時期と目標額を段階的に設定し、その段階に応じた使途（支援策・救済策）を示せば、市民からも使途が明確でわかりやすい基金になるのではと考えますが見解を伺います。



Youtube動画 58分頃から  
ご覧ください！

## 答弁要約

市民の皆様が納得したうえで寄附をしていただけるよう、実施前においても、可能な限り使途の具体化を図りお知らせしていきます。



## 松原大介応援クラブ

〒489-0055 愛知県瀬戸市滝之湯町24-1

TEL : 0561-76-3153

Email : d.matsubara3153@gmail.com



facebook



松原大介応援クラブ  
ホームページ

